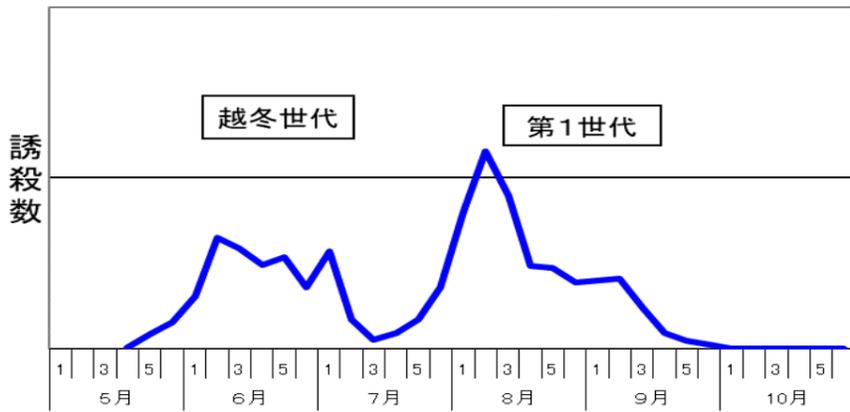


モモシクイガのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病害虫防除部

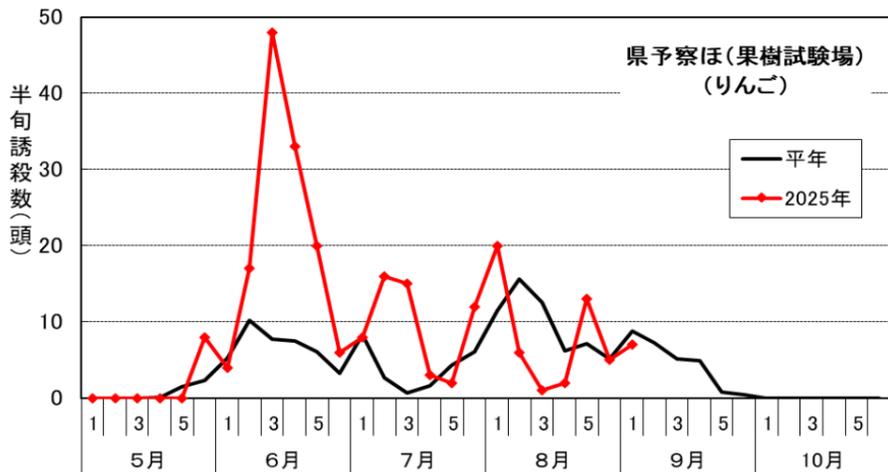
過去10年間の消長模式図（果樹試験場内 試験場予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・標高 600m以下の平地では年2回が大半である。
- ・準高冷地及び日照の少ない山沿いでは年2回発生が主体で、1回発生が混在する。
- ・越冬世代成虫は6月上旬から始まり、7月に入ると盛んになり、8月上旬まで続く。産卵は7月になると急増し、産卵最盛期は7月中下旬で、大半はがくあ部に産みつけられる。
- ・第1世代成虫は8月上旬から発生し、発生最盛期は8月中～下旬である。産卵最盛期は、成虫の発生期とあまり変わらない。
- ・防除はふ化幼虫の食入防止を中心とする。6月下旬から概ね2週間間隔で9月上旬まで防除する。特に7月中下旬と8月中下旬は重要な防除適期である。

○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



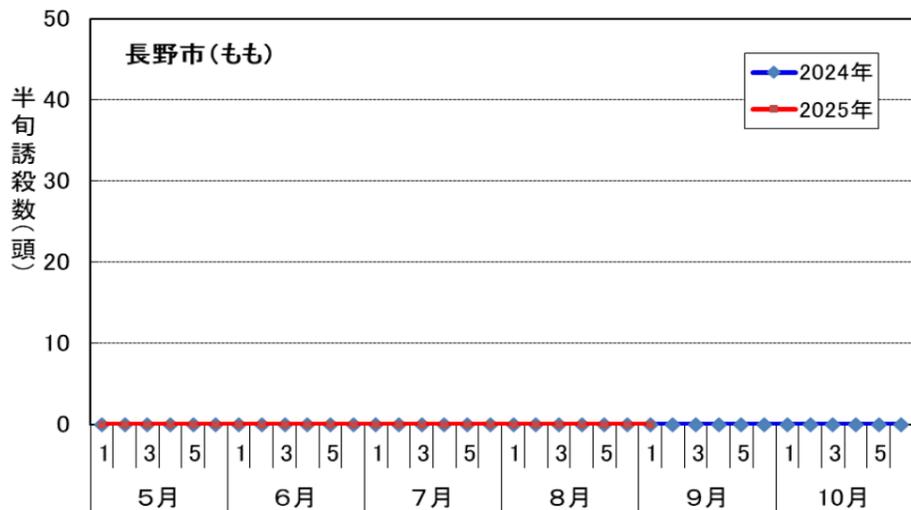
【調査地点】（標高約 350m）

- ・須坂市 長野県果樹試験場（りんごほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

・第1世代成虫の誘殺ピークが平年よりやや早い8月の初旬にあった。平年ではその後は徐々に減少し、誘殺が見られなくなるのは9月下旬であるが、本年は8月半ばに1頭まで減少した。その後再び10頭前後の誘殺が観察されている

○長野市・須坂市（病害虫防除部）

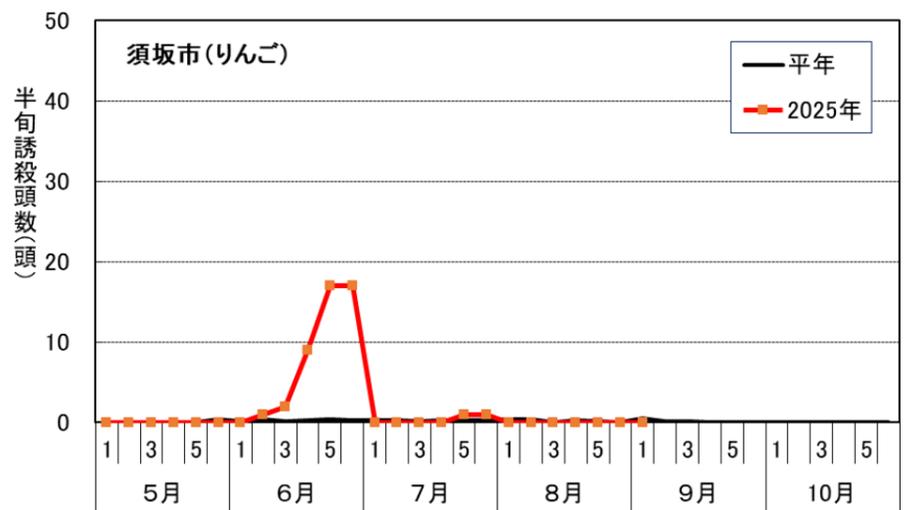


【調査地点】（標高約 370m）

- ・長野市（ももほ場）
- ・2024年からほ場変更したため、平年値なし。

【コメント】

・他の設置場所ではみられるモモシクイガも、ここは9月第1半旬時点でも誘殺が観測されていない。



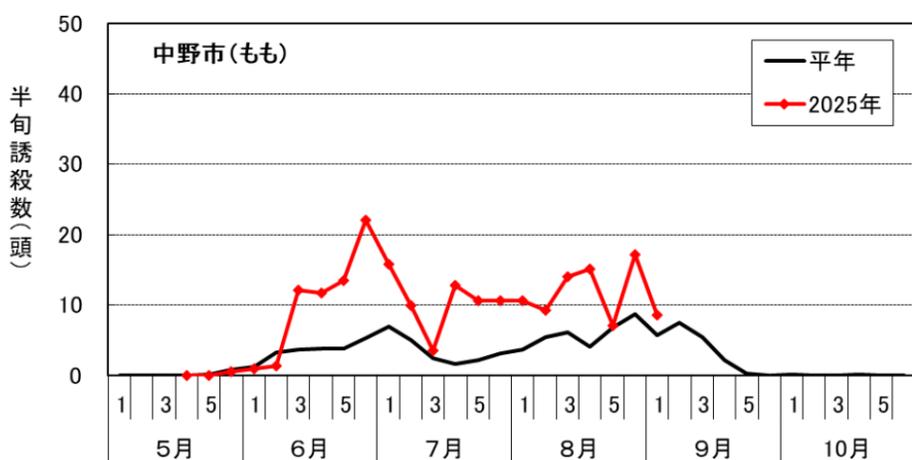
【調査地点】（標高約 370m）

- ・須坂市（りんごほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

・越冬世代成虫の誘殺数がおおかったため、第1世代成虫の誘殺も増えることが予想されたが、7月下旬に数頭記録されただけで、9月第1半旬時点で明確な第1世代成虫の誘殺ピークは観察されていない。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約 370m）

- ・中野市（ももほ場）
- ・2025年は5月中旬に設置

【コメント】

・第1世代成虫の誘殺数は、平年より多く、半旬で10頭前後の高水準のまま1か月以上推移した。8月第4半旬以降も平年より多い誘殺が続くが、誘殺数には波がみられる。